

11 共通教科 家庭

<目 次>

1 「指導と評価の年間計画及び評価規準の作成の手引き」

P 1～2

2 「指導と評価の年間計画」

○家庭総合

P 3

3 「单元ごとの指導と評価の計画」

○家庭総合

P 4～5

○科目の目標

○科目の評価の観点及びその趣旨

○内容のまとめごと

□目標

□評価規準

○单元ごと

□目標

□評価規準

□各授業時間ごとの主な内容

□授業指導案例

0 I 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と単元計画」の作成の手引き

1 「指導と評価の年間計画」について

これは、次の2の「評価規準と単元計画」の全単元について、その概要を記述したものである。生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成する。これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、学習内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まっていたが、この「指導と評価の年間計画」では各授業ごとの学習活動のポイント、観点別の評価のポイント、評価方法、評価規準も含めて記述する。

2 「評価規準と単元計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準と単元計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の内容構成で作成する。

○科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」を示す。

- ・科目全体の目標…学習指導要領に示す当該科目の目標
- ・科目全体の評価の観点及びその趣旨

…「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

○内容のまとまりごとの「目標」「評価規準」…内容のまとまりごとに4観点別に示した目標、評価規準

- ・内容のまとまりごとの目標 …学習指導要領の「内容」の(1)(2) …の大項目ごとの目標を記す。
- ・内容のまとまりごとの評価規準…内容のまとまりごとに4観点別に示した評価規準を記す。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

※「内容のまとまり」とは、ほとんどの教科書の「章」に該当するものであるが、学習指導要領に示された内容に基づいており、使用する教科書等に基づく「章」とは必ずしも一致しない場合がある。

○単元ごとの「目標」「評価規準」を示す。

- ・単元ごとの目標 …実際の使用教科書等にもとづいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標。学習指導要領の項目ごとのねらいをもとに記載する。
- ・単元ごとの評価規準…単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。

○各授業時間ごとの具体的評価規準と方法

- ・各授業ごとに単元ごとの評価規準に基づく具体的な評価規準とその方法を示したもの
- ・本時の目標…上記の「指導と評価の年間計画」及び科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」、内容のまとまりごとの「目標」「評価規準」を反映したものでなければならない。
- ・評価規準 …「目標」を具体化したものであり、目標が生徒の学習状況として実現された状況を具体的に想定して示す。
- ・評価方法 …評価方法については、各学校で各教科・科目の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達の段階に応じて観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択していく。

単元ごとの指導と評価の計画<例>

□単元名：○○○○

□単元の目標

○○○○○

□各授業時間ごとの指導と評価の計画（例）

主な学習内容	ねらい	学習活動	時間	学習活動における具体の評価規準				評価方法等
				関心・意欲 ・態度	思考・判断 ・表現	技能	知識・理解	
・学習内容 の主な項目を記載								・評価の具体的な方法及び指導のポイントを記載

II 指導と評価の年間計画(家庭総合) <例>

科目名：家庭総合 学科：〇〇科

岐阜県立 〇〇 高等学校

目 標 【学習指導要領】	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家族や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解		
到達目標に向けての具体的な取り組み【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、生活における経済の計画と消費、生活の科学と環境、生涯の生活設計などに関する知識や技術を、断片的に習得させるのではなく、生涯を見通しながら、実際の生活の中で生きて働く力となるよう総合的に習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てることをねらいとしている。特に、生活をする上での様々な課題を主体的に解決できる能力の育成を目指して、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動を充実させること。							
月	単元名	使用教科書項目	時	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法			
4 5 6 7	1編 人とかかわって生きる 第1章 自分らしい生き方と家族	1 自分を見つめる	1	・現在の自分を見つめ、自分らしい生き方を踏まえた生活設計について考えようとしている。	ワークシート 学習態度 定期考査	○		
		2 自立した生き方、ともに生きる人生	1	・人生のライフステージにおける課題を知り、自分や人の一生についての考えをまとめることができる。		○	○	
		3 共に生きる家族	1	・家族・家庭に関する課題・問題点をまとめ、現在の家族・家庭のあり方や役割について考えを深めて発表することができる。		○		
		4 家族に関する法律	1	・家族に関する法律についての知識を身に付けている。				○
		5 私たちの生活を支える労働と生活時間	4	・生活にかかわる労働の意義や労働環境について理解できる。				○
	1編 人とかかわって生きる 第2章 子どもとかかわる	1 子どもを知る	2	・自分の子どもの頃を思い起こしながら、子どもの世界に興味・関心をもち理解しようとする。	ワークシート 学習態度 実習記録 定期考査	○		○
		2 発達のすばらしさ	2	・子どもの心身の発達について理解している。				○
		3 子どもの生活	4	・子どもを取り巻く環境や子育ての環境について課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。		○	○	○
		4 親になることを考える	4	・子どもと触れ合う体験学習を通して、子どもを生み育てる意義や親子関係の在り方について、興味・関心をもって考えをまとめて発表できる。				○
		5 すこやかに育つ環境	3	・子どもの発達段階における子どもを取り巻く人とかかわり、地域環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解している。				○
	1編 人とかかわって生きる 第3章 高齢者とかかわる	1 高齢社会に生きる私たちの暮らし	2	・高齢社会の現状と課題について、情報を収集・調査・研究し、問題点を把握し、課題解決に向けて考えをまとめている。	ワークシート 学習態度 定期考査	○		○
		2 高齢者を知る	2	・高齢者との触れ合いを通して、高齢者の心身の特徴や生活について理解を深めている。				○
		3 高齢者の自立のために私たちができること	4	・日常生活における基本的な生活動作の介助方法を身に付け、地域社会の役割や地域福祉の重要性について理解している。				○
		4 豊かな高齢期を迎えるしくみ	2	・高齢期における社会的な制度・しくみについて理解している。				○
	1編 人とかかわって生きる 第4章 社会とかかわる	1 支え合う暮らしとは	2	・生涯を通しての社会福祉・社会保障のしくみについて意欲的に理解しようとしている。	ワークシート 学習態度 課題レポート 定期考査	○		○
2 私たちの社会福祉		4	・現在の社会福祉の状況や社会保障のしくみについて理解し、生活課題と関連させながら考えることができる。				○	
3 地域社会の一員としてのボランティア活動		4	・地域社会の一員としての自覚をもち、ボランティア活動に主体的に参加し、振り返りによって自分ができることは何かを考えて発表している。				○	
8 9 10 11 12	2編 生活をつくる 第1章 食生活をつくる	1 人と食物のかかわり	1	・世界や日本の食文化、自分や家族の食生活に関心をもち、食事の意義や役割について理解を深めている。	ワークシート 学習態度 実習記録 定期考査			○
		2 私たちの食生活	2	・食事の意義や役割、食生活を取り巻く環境について、現代の食生活の課題が理解できる。				○
		3 栄養と食品のかかわり	6	・食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点による知識を深めている。				○
		4 食品の選び方と安全	2	・健康生活を送るための食品の選び方、食の安全確保について理解し、実際の食生活に生かすことができる。		○		○
		5 食事の計画と調理	18	・栄養・食品・調理に関する基礎的な知識をもとに献立を作成し、調理実習を通して、日常生活の基礎的な調理技術を身に付け、後片付けまでの一連の動作を計画し実践できる。				○
		6 これからの食生活を考える	4	・現在の日本の食生活に関する情報収集や調査から課題を明確化し、解決方法について、自分の考えをまとめて発表することができる。				○
12	2編 生活をつくる 第2章 衣生活をつくる	1 人と衣服のかかわり	2	・世界や日本の衣文化、民族服としての和服に関心をもち、衣服の役割について理解を深めている。	ワークシート 学習態度 課題レポート 作品製作 定期考査	○		○
		2 衣服の機能	1	・衣服の機能を生かした着装について考えている。				○
		3 衣服の素材	2	・衣服材料の性能と特徴について、実験により科学的な知識を身に付けている。				○
		4 衣生活の管理	3	・衣服の選択・購入・管理について基礎的な知識を理解し、適切な衣服管理ができる技術を身に付けている。				○
		5 快適な衣生活	2	・現在の衣生活を取り巻く状況について、自分の衣生活を振り返りながら課題を把握し、再利用の方法を考え実践することができる。				○
		6 衣服をつくろう	18	・衣服の平面構成、立体構成を理解し、基礎縫いの技術を身に付け、意欲的に衣服製作実習に取り組むことができる。				○
1 2 3	2編 生活をつくる 第3章 住生活をつくる	1 人と住まいのかかわり	1	・日本の気候、風土に適した住まいに関心をもち、快適な住まいづくりに意欲的に取り組んでいる。	ワークシート 学習態度 実習記録 定期考査	○		○
		2 住まいと住まいの文化	1	・住まいの役割、機能について、地域の特徴を調査・研究したり、ライフステージや家族構成と住まいの関係について理解を深めている。				○
		3 住まいを計画する	2	・住空間の計画において、平面図を読み取り、インテリアに興味・関心をもち、自分らしい住空間を表現することができる。				○
		4 健康的な住まい環境	2	・健康に配慮した快適な室内環境の条件について、科学的な測定から理解を深めて実生活に役立てることができる。				○
		5 安全な住まい環境	4	・安全に配慮した住まいに関する知識を身に付け、快適な住まいについて、安全対策や人にやさしい住環境について考えて発表している。				○
		6 これからの住まいを考える	2	・住まいの移り変わりや文化、住生活の課題に興味・関心をもち、今後の自分の住まい方を具体的に考えることができる。				○
3編 消費者として自立する 第1章 消費行動を考える	1編 消費者として自立する 第1章 消費行動を考える	1 消費行動と意思決定	2	・自分の消費行動について、具体的な事例を通して主体的に考え、検証することができる。	ワークシート 学習態度 定期考査			○
		2 社会の変化と消費生活	4	・自分が消費者の一員であることを自覚し、購入のあり方、消費行動、消費と環境とのかかわりについて、積極的に理解しようとしている。				○
		3 消費者の権利と責任	1	・消費者の権利と責任について理解し、現代社会の消費生活における問題点を把握し、課題解決に向けた方策を考えている。				○
		持続可能な社会環境	1	・社会資源・環境に目を向け、情報収集や調査から知識を身に付けて、家庭生活と環境との関係について考えている。				○
3編 消費者として自立する 第2章 経済的に自立する	3編 消費者として自立する 第2章 経済的に自立する	1 経済のしくみを知る	2	・家庭経済、国民経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようとしている。	ワークシート 学習態度 定期考査	○		○
		2 ライフステージと経済計画	2	・自分の経済的自立を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適正な考えをもち、短期・長期的経済計画の重要性を理解することができる。				○
通年	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	12	ホームプロジェクト (See) 各自の生活から問題点を見つけ、具体的な問題解決のためのテーマを設定する。 (Plan) 具体的な実践計画を立てる。 (Do) 計画に基づいて実践し記録する。 (See) 実践活動について反省・考察し、自己評価する。 ・意欲的に課題を発見し、問題解決に向けて多角的に探究する態度を身に付けている。 ・実践方法を工夫し、学習した知識と技術を活用して研究を進めている。 ・研究実践内容をわかりやすくまとめて発表できる。 学校家庭クラブ活動 ・学校家庭クラブ活動に関心をもち、学校や地域における実践活動に意欲的に参加している。	実践記録 発表態度 行動観察	○	○	○
合計時間数			140					

単元ごとの指導と評価の計画

□単元名 第2章 衣生活をつくる

1 人と衣服のかかわり 2 衣服の機能 3 衣服の素材 4 衣服の管理 5 快適な衣生活 6 衣服を作ろう

□単元の目標

着装、被服材料、被服の構成、被服製作、被服管理などについて科学的に理解させ、衣生活の文化に関心をもたせるとともに、必要な知識と技術を習得して安全と環境に配慮し、主体的に衣生活を営むことができるようにする。

□各授業時間ごとの指導と評価の計画

主な学習内容	ねらい	学習活動	時間	学習活動における具体の評価規準				
				関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	評価方法等
1 人と衣服のかかわり	人と衣服のかかわり理解させる。	衣服を着る理由や民族衣装について考える。	2	①世界の民族衣装に関心をもって取り組んでいる。		①世界の民族衣装の情報を収集・整理することができる。		ワークシート 学習態度
		ライフステージにおける衣装について考える。			①ライフステージにおける衣装の特徴を考えまとめて発表している。		①ライフステージにおける衣装の特徴を理解している。	
2 衣服の機能	自然環境、社会環境と衣服の関係について理解させる。	衣服の機能について考える。自分自身の着装を振り返る。	1		②衣服の機能を生かした着装を考えている。		②衣服の機能を理解している。	ワークシート 学習態度
3 衣服の素材	衣服素材の種類や生地を構造を理解させる。	生地を繊維を観察させる。	2	②繊維の観察に意欲的に取り組んでいる。			③衣服素材や繊維の種類を理解している。	ワークシート 学習態度
		衣服素材の性能（加工）について調べる。			③衣服素材の加工についてまとめ発表している。	②衣服素材の加工について調べることができる		
4 衣生活の管理	正しい衣服の選択・購入ができ、衣生活の計画を立てさせる。	各自の衣生活の計画を立てる。	3		④衣生活の計画について考え工夫している。			ワークシート 学習態度 課題レポート
		衣服の表示の意味を理解する。		⑤衣服の表示を調べ、取り扱い方を考えている。		④衣服の表示の意味を理解している。		
		衣服の手入れについて理解させる。		⑥衣服の汚れと洗濯の必要性について考えている。		⑤実験を通して洗剤の働きと汚れが落ちるしくみを科学的に理解している。		
5 快適な衣生活	全ての人が快適に過ごすことができる衣服を考えさせる。	衣服の安全性について考える。ユニバーサルファッションについて調べることができる。	2	⑦安全な衣服、快適な衣服について考え発表することができる。	③ユニバーサルファッションについて調べることができる。			ワークシート 学習態度
6 衣服を作ろう	基礎的・基本的な衣服製作の技術を習得させる。	衣服製作の基礎的・基本的な技術を身に付ける。	18	③基礎縫いの実習を通して正確で丁寧な作品作りに意欲的に取り組んでいる。	⑧効率よく作業を進めるための手立てを考え、計画的に作業している。	④基本的なミシン縫い、手縫いなどの縫製技術を身に付け正しく製作することができる。	⑥衣服製作の基本的な方法について理解している。	ワークシート 学習態度 作品製作
総時間数			28					

学習指導案

科目名	家庭総合		
単元名	第2章 衣生活をつくる 4 衣生活の管理		
本時の主題	衣服の汚れと洗濯による管理		
指導観	衣服の汚れや洗剤の働きを実験により科学的に理解させ、「なぜそうなるのか」、または、「なぜそうしなければならないのか」といった根拠を考えさせ、本時の目標を達成させたい。「汚れたら洗う」という考え方から、「着用したら洗う」という清潔への意識を高めさせたい。		
本時の目標	衣服の汚れと洗濯の必要性について関心をもち考える。 実験を通して洗剤の働きと汚れが落ちるしくみを科学的に理解する。		
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価について
導入 5分	本時の目標の確認	1 3時間着用したTシャツを見て、衣服の汚れの成分を考える。	
		○予想される生徒の反応 ・汗、ほこり、髪の毛、食べこぼし等	
展 開 40分	汚れの種類と洗濯の必要性 洗剤の働き	2 1と同じ条件でニンヒドリン反応が出たTシャツを見て、再度衣服の汚れの成分を考える。 汚れの成分と種類を資料により知る。	評価規準 【関心・意欲・態度⑥】 衣服の汚れと洗濯の必要性について考えている。 〈評価方法〉 ワークシート 授業態度、発言 〈Aの例〉 ・短時間でも着用すると衣服は汚れることに気付く。 ・汚れの性質の違いについて考える。
		○予想される生徒の反応 ・目には見えないけど汚れている部分がある。 ・脇の下、えり元は特に汚れている。	
		3 実験 ローリングアップ 実験方法を伝え、どのような反応が起こるか予想し、発表する。 グループごとに実験する。	評価規準 【知識・理解⑤】 実験を通して洗剤の働きと汚れが落ちるしくみを科学的に理解している。 〈評価方法〉 ワークシート 授業態度、発言 〈Aの例〉 ・実験の結果を予想し発表することができる。 ・液剤の種類や量、用途に着目することができる。
		○予想される生徒の反応 ・泡がたくさんでている。 ・洗剤の働きで汚れが浮いている。 ・洗剤液が繊維にしみこんでいる。 ・洗剤が汚れを包み込んでいる。	
		4 界面活性剤の4つの作用（浸透・乳化・分散・再汚染防止作用）を演示実験で観察する。 ○予想される生徒の反応 ・界面活性剤の作用について驚く。 ・家庭で使っている洗剤を見てみようと思う。	
まとめ 5分	本時のまとめ	自己評価、感想をまとめる。 実物の洗剤を見せながら、洗剤の種類についてふれ、家で使用している洗剤と液性を調べてくるように指示する。	

□工夫している点

ニンヒドリン実験により目に見えない汚れを可視化することで、衣服の汚れの種類と洗濯の必要性に関心を持たせ、生理衛生面から汚れを科学的に理解できるようにした。
本時の授業では、洗濯の必要性とローリングアップの実験についてじっくりと取り組めるよう、界面活性剤の作用については演示実験で示した。